

## 学び合いの取組

私は、学校で学ぶ意義を「学び合えるから」だと考えます。ここでは、私なりの考えと、どのように学び合う環境を整えているのかを紹介させていただきます。

### (1) 学校で学ぶ意義

柔軟な思考力、豊かな発想力、協調性や社会性などを学ぶために、「教科」という材料を使って学び合うことが、学校で学ぶ意義だと考えます。

学校では、話し合ったり、助け合ったりしながら学びます。時に意見が食い違って、その解決策を考えることもあります。また、自分とは違った発想に感心したり、自分の考え方や力が他者に認められたりもします。思いや考えがなかなか相手に伝わらず、どう伝えればいいのかを試行錯誤することもあるでしょう。

教科という材料を通して、学び合いをするのが学校なのだと思うのです。そう考えると、教師が教えるのは教科ではなく、つながり方です。たとえ勉強が苦手な子がいたとしても、教師が個別に指導をするのではなく、得意な子につながれるようにサポートしてあげます。そして、子どもたちを信じます。

それを繰り返すことで、子どもたちは少しずつつながりを大切にし、「自分が他の人よりできる・できない」という考え方から脱却し、「みんなのできるようになる」「みんなのでつくりあげるようになる」ことを目指すようになってくるのです。

### (2) 学び合う環境を整える

私が、学び合いをすすめるうえで、環境をどう整えているかをお伝えします。

#### ① グループの単位は4人

子どもたちが班にした際、誰もが主体性をもって話し合うことができ、学びを深めるのに適した人数は4人です。3人以下では、学びを深めたり、助け合ったりする点で劣ります。5人以上では、主体性を発揮できない子が出てきます。男女混合の4人こそ、学び合いながら、柔軟な思考力、豊かな発想力、協調性や社会性を身に付けるのに適しています。まずは、この4人班で、みんなができるようになることを目指すようにさせます。

#### ② 自力解決と話し合いの時間を分けない

「まずは自分で考えましょう」「今からペア・グループで話し合いましょう」といった区切りを取っ払うということです。自分で考えることに行き詰まった

り、他の人がどう進めているのか気になったりしたとき、おのずと話し始めます。だから、教師が時間を区切るより、話し合うタイミングを子どもたちに任せてしまったほうがいいのではないかと考えます。

### ③ 「たずねる」を大切に

「早くできた子や分かった子は、まだできていない子や困っている子を助けてあげてください」そんな指示を出すことはありませんか。私自身もありますが、実はこれは最善の指示ではありません。「まだできていない子」は「困っている子」なのではないでしょうか。もしかしたら、じっくりと考えている最中かもしれません。困っているかどうかは、本人以外には分からないのです。だからこそ大事なものは、困っている本人自身がそれを周りに伝えることです。

できた子や分かった子が「教えてあげようか」ではなく、困っている側が「どうすればいいかな」と、気兼ねなく尋ねる言葉が飛び交うクラスにしたいと思っています。だから教師は、困っているのに周りに尋ねられない子を見つけ、他の子につなぐ役割を担います。